

4種類の水を飲み比べ 利き水にチャレンジ!



こんにちは。今回は、水道水の安全性やおいしさを知っていただくために、上下水道部が出前講座などでやっている「利き水」のことを紹介するね。



「利き酒」じゃなくて「利き水」？ どんなんことをするの？



利き水は、4種類の水を用意しているんだ。市販のミネラルウォーター、小牧浄水場（原水は最上川）の水、平田浄水場（原水は田沢川ダム）の水、4種類目は別の水の場合もあるけれど、最近では、升田水源（原水は伏流水）の水を、どの容器に入っているのかわからない状態で準備しているんだ。ちなみに、水が最もおいしく飲める水温といわれている、10～15℃に冷やしておくことがポイントだよ！



この4種類の水を飲み比べて、質問に答えるってことだね。



そうだよ。4種類の中で一番おいしく感じた水と、それぞれこの水なのか、答えていたんだよ。最後に、どの容器にどの水が入っていたのか、答え合わせをしているんだよ。



いつも何気なく口にしている水だけど、おいしさや味の違いって分かるものなの？



これまでの利き水の結果を、下にまとめてみたよ。水の味の感じ方には、個人差があるけれど、「特に水温が一緒の場合、水道水と市販のミネラルウォーターを飲み比べて、大きな差はない」という結果になっているよ。

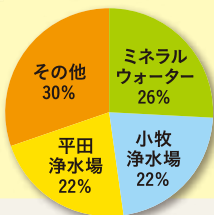


「利き水」って楽しそうだけど、案外難しそうだね。機会があったら挑戦してみたいな。



利き水の結果をまとめてみたよ!! これまでの参加人数/約2,800人

問1 一番おいしく感じた水は?



問2 4種類の水は、それぞれどこの水でしょう?

全問正解率
6%!



上下水道料金のお支払い、水道の使用開始・中止、名義変更、受益者負担金、合併処理浄化槽負担金、その他上下水道に関するお問い合わせは...

酒田市上下水道お客さまセンター

TEL.0234-22-1811 FAX.0234-22-3160

お支払い等の
窓口営業時間
《平日》
8:30~18:00

酒田市上下水道広報

みんなの水さかた

2019年春
第24号

【編集・発行】酒田市上下水道部

酒田市末広町14-14 ☎0234-22-1812



写真:左から佐藤山形県企業局長、高橋山形県企業管理者、佐藤鶴岡市上下水道部長、須田酒田市上下水道事業管理者

「水道事業の広域連携」実現に向けて

平成31年2月18日、庄内地区受水団体協議会（酒田市、鶴岡市、庄内町で構成）は、庄内広域水道用水供給事業を運営する山形県企業管理者に対して、事業統合の早期実現に向けた要望書を提出しました。

2市1町では、山形県から水道用水の供給を受けていますが、この供給事業と3つの水道事業を1つに統合し、水源から蛇口までの水道サービスの担い手を1つにすることによって、より安定的かつ効率的な事業運営を目指すこととしております。

現在、水道事業の経営状態は、人口減少等による給水収益の漸減傾向に加え、老朽化した水道施設や水道管の更新費用の増加により、悪化しつつあります。

今後、事業統合を実現することによって、経営基盤の強化を図り、サービス水準の維持・向上や、お客様負担の圧縮等に努めてまいります。

未来につなぐために・・・持続可能な水道事業をめざして

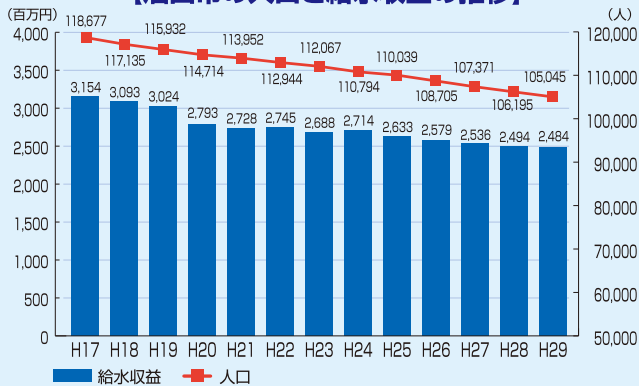
水道事業の現状と課題

水道は、市民生活に欠かすことのできないライフラインであり、その普及率は、酒田市でも99.6%に達しています。しかし、人口減少などにより、給水収益が減少する中で、古くなった施設や水道管の更新に多くの費用がかかるなど、様々な課題を抱えています。

人口減少が与える影響

今から約40年後、日本の人口は、8,600万人程度になると推計されています。厚生労働省の推計では、人口減少に伴い、水道水を使う量も約4割減少するとされています。給水量の減少は、直接料金収入の減少につながり、経営状況の悪化が懸念されます。

【酒田市の人口と給水収益の推移】



人口減少率ワースト3

今後30年間の都道府県別の人口減少率
(国立社会保障・人口問題研究所推計)
1位 秋田県 41.2%
2位 青森県 37.0%
3位 **山形県 31.6%**

酒田市は
36.2%の予測



拡張整備から維持管理へ

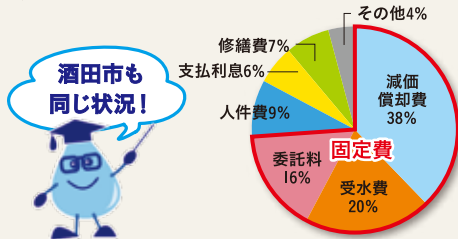
1970年代に整備した施設や水道管が、約40年の歳月を経て、更新の時期を迎えています。

今後、水需要の更なる減少が予測される中、今ある水道施設をいかに効率的に維持・更新していくかが求められています。

将来に負担を残さないために
事業経営のスリム化が必要

水道事業は装置産業

水道事業は、固定費が大部分を占める装置産業です。給水量が減っても事業費用が減少しないという特性を持つ一方、収入の9割が水道料金なので、給水量の減少は、経営の悪化に直結します。



酒田市も
同じ状況!



水道事業の基盤強化に向けて水道法が改正

広域連携の推進

アセットマネジメント*の充実

料金収入の確保

着実な
水道施設の更新

官民連携の推進



*アセットマネジメントとは、将来にわたって経営を安定的に継続するための、長期的視野に立った計画的な資産管理

水道サービスを持続させるため、事業体の枠を越えた
広域的な取り組みが必要



広域連携による事業統合で持続可能な事業運営へ

酒田市、鶴岡市(三川町)、庄内町の水道事業と、その地域に水道水を供給している広域水道用水供給事業の統合を実現することによって、経営基盤の強化を図っていきます。

広域連携による事業統合で期待される効果

- 経営規模の拡大による運営コストの削減
- 施設の統廃合による運営コストの削減
- 経営・技術ノウハウの共有、人材の確保



山形県水道ビジョンに基づき、庄内圏域水道事業広域連携検討会が設置され、事業統合を含めた将来予測(効果比較)の検討を行いました。次号では、その結果について特集します。

将来にわたる水道事業の
持続性を確保し、
水道料金の急激な上昇を抑制